
魔法少女リリカルなのはなのか。

魔王 なのは

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのはなの。

【Nコード】

N4060BA

【作者名】

魔王 なのは

【あらすじ】

高町なのはの第二の人格として憑依転生しました。そんなお話。

第1話

SIDE?

私は今とても困惑している。その原因は目の前の少女である。私は確か乗っていたバスが横転して死んだはずだ。別に神様とやらにも会ってないし別段特殊な能力を持っているわけでもない。元いた場所には某運命の夜の宝石剣があったわけでも古びた銅鏡があったわけでもない。なのに何故ここにいます？

「私は……」

声を出してみるととても素敵な田村ゆかりさんボイスである。そう、今私の目の前にあるのは少女ではなく(……)鏡である。

え、これ何？まさか憑依？しかも栗色の髪にツインテール、田村さんボイスでしかも見た目は5歳前後あたり。さあ皆さん分かったかな？そう、この少女、この体は……

「何故なのはに憑依なんてしているんだ!？」

はい、リリカルでマジカルな主人公高町なのはです。これだけでも驚きなのにもっと度肝を抜かれたことがある。それは(ふえ!？えええ、え、何これ!？体も動かないし声も出ないのに何で勝手に動くの!？)

……ああ、どうやらこれは唯の憑依ではなく

「二重人格化してるのか……OTL」

「どうやら元のなのは体に二重人格として憑依し、今現在の体のコントロールは私にあるようだ。」

「えと、落ち着いてください私。」

(ふえ?)

「私は貴女のもう一つの人格です。」

(ふえ ええええええええええ!!!! どういうことなの?!)

こういうとき二次創作では適当に誤魔化したりするんだろうが……

「いいですか？ 落ちて聞いてください。これは私のあくまで推論なのですが・・・」

(え、あ、はい。)

「実は私は正確には貴女のもう一つの人格というわけではありませんせ

(? ? ? ? ? ? ? ? ? ?)

「私は一度死んでいるのです。」

（え！？なのはしんじやったの！？）

「違います。死んだのは元の私、つまり貴女の第二の人格として宿る前の私です。」

（え〜とつまり・・・）

「私は元々は貴女とは別の人間です。ですが、元の私が死んでしま
いどうやら貴女の第二人格になってしまったようなのです。」

（ふええええ！！ど、どうしよう！？）

「とりあえず一番初めに確認しておきたいことがあります。」

（えと、何ですか？）

「そうですね・・・説明するより実際にやったほうが早いでしょう。」

「

少し集中し、体の中になのはを感じようとする。同時に私という存在をなのの中で確立させる。

（あ、なんだろうこの感じ？私の中にもう一つ・・・う〜んなんて言ったらいいんだろう？魂？が在る感じがするの。）

「それが私です。ではイメージしてください。その魂の位置が入れ替わるように。」

（ん〜と、え〜い！）

パチツと何かが入れ替わる感じがした。

（成功のようですね。）

第1話（後書き）

オリ主プロフィール

名前 高町なのか（旧姓 上澤）

年齢 9歳（原作開始時）

好きなもの 高町家 なのは なのはの友達及びなのはが気に入った娘

嫌いなもの なのはをいじめる奴 転生者（ハーレム目指すようなのは特に） 黒光りするG

特技 スポーツ全般 特に走る（たとえなのはの体であっても変わらず。）

戦闘スタイル 近接射撃格闘

考察

なのはの体に第二の人格として憑依した転生者。例えなのはの体であつてもその類まれな運動能力は衰えていない。ただし、なのかが裏に引つ込むと元の運動音痴に戻る。原作のなのはが一人で御家にお留守番中に入ったためなのはは知らない子は嫌だ的なことにはならない。普段はなのはが表に出ているが、ちよくちよく入れ替わる。（主に体育とか）なのはの戦闘スタイルは原作と変わらないので入れ替わることによってスタイルを変えることができる。また、2人同時に表に出ることも出来、リアル真の超兵ができる。そのときの

戦闘スタイルは高機動型万能タイプとなる。また、レイジングハートがなのかの適正を考慮した結果シューティングモード。デバイスモードのほかに、ランスモードが追加されている。（シューティングの先端を整え、槍にした感じ）なお、なのはを溺愛し、また一人の女性として愛している。なのはの敵は容赦なく叩きのめす。

第二話

SIDEなのは

あの日、お父さんが大怪我してみんなが忙しくて私は一人ぼっちで。そんな日、私は出会いました。幼い私の心を4年前のあの日からずっと一緒にいてくれる私の私しか知らない大切な人が守ってくれた、癒してくれた。だから私は、私たちはお互いを最高の友人として家族として愛しい人として傍にしようと誓った。私の大切な

魔法少女リリカルなのはなのか。始まります。

SIDEなのか

あの日から、なのはの中に別人格として憑依したあの日から4年経ちました。あれからなのはと一緒に色んな約束事を決め、なのはに転生者という概念を植えつけました。私という原作から乖離した存在がいるのならばもしかしたら存在するのかもしれませんが、なのでこの世界は私のいた世界ではアニメになっていたことを教えました。内容は忘れたといって省いてありますが、これでたとえ転生者がいてもなのはがそういう人種汚物がいることを理解しているのならばSSなどにあるハーレムを作ろうとする腐った根性した転生者をなのはに近づけずにいることが出来ます。おっと、なのはを起こす時間です。すね。

（なのは、なのは起きてください。朝ですよ）

「うにゃゝ、あと5分・・・・・・・・・・」

なんとベタな・・・

（なのは、起きないと遅刻ですよ）

「うゝゝん。あと5時間・・・・・・・・」

（増えてます！というか増えすぎです！）

本当にそれはどうかと思いますよ？この子は昼まで寝るつもりなんですか？？

「ふあゝゝゝ。むにゃ、おはようなのかゝ。」

（はあ。いつもそうですがしっかりしてください。）

「にゃははははははゝ。ごめんね？」

（・・・まあいいんですけど。というよりなのは、遅刻しますよ？）

「ふえ、あ！遅刻するゝゝゝゝ！！！！！！」

本当、手のかかる子です。でも、

（かわいいです）

なんというか4年一緒にいるうちに何故かなのことが好きになつてしまいました。もちろん女性として。私はロリコンだったのでしょうか？まあどうでもいいことですな。

「いつてきまゝす！」

さて、今日は体育があつたはずなので私も頑張りますか。

SIDEなのは

予鈴に間に合つて遅刻せずにすんだけど今日は体育がある日なので（なのか？あとで変わってくれる？）と聞きます。

（構いませんよ。その代わり、しっかり勉強はしてください。）

（はい。）

なのかと入れ替わると何故か私の体ではありえない動き、というか私が運動できないのに出来ちゃうの。ある意味一番の不思議です。

（じゃあ三時間目になったら変わってね。）

(了解。なのは今日も一日頑張りましょう。)

(うん！)

「なのは、早くしなさい。」

「あ、うん。今行く〜」

その声に反応し近寄っていく。

「もう、またボーっとして！」

この金髪で声を荒げているのはアリサちゃん。最初に会ったときはけんかをして印象最悪だったけど今ではとっても仲良しさんなの。

「なのはちゃん良くボーっとしてるもんね」

この紫のおっとりしたのはすずかちゃん。アリサちゃんとした喧嘩でいじめられてた子。この子も私の大切なお友達なの。

「にやははは、ごめんね？二人とも」

「もうしっかりしなさいよ！」

「急ごう？体育始まっちゃうよ？」

時間を見ると後3分。

「うん急ごう！」

そういつて私は駆け出しました。

これが私の日常。これから先大人になって結婚してそんな普通の生活を送るはずだった日常。でも、今日を境に私達の人生が劇的に変化することになるとは思ってもみなかったの。

第二話（後書き）

次回、淫獣が出ます。もちろんなのかがそんなこと許しませんが。

なのは大好きっ子ですからね。

では次回に乞うご期待！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4060ba/>

魔法少女リリカルなのはなのか。

2012年1月14日18時48分発行